

反語文の成立条件

お茶の水女子大学

伊藤さとみ

ito.satomi@ocha.ac.jp

1. はじめに

反語文は、疑問文の統語形式をとりながら、意味的には命題を断言する構文である。断言される命題は、yes/no 疑問文の場合は、当該文と極性が反対であること、wh 疑問文の場合は、該当する個体が存在しないことを断言する。

1) Yes/no 肯定疑問文

私があなたに嘘をついたことがありますか。

(断言内容：私はあなたに嘘をついたことがない。否定陳述文)

2) Yes/no 否定疑問文

咳なんかで死にますか。

(断言内容：咳では死なない。肯定陳述文)

3) Wh 疑問文

誰がこんな人に投票しますか。

(断言内容：誰もこんな人に投票しない。存在否定)

本稿では、反語文の統語構造、意味論、韻律の面からの検証を行う。2節で反語文の振り舞いを否定極性成分と応答形式の観点から紹介し、3節で反語文の意味論を提案し、4節で反語文の韻律的特徴と意味論の関連を考察する。5節はまとめである。

2. 反語文の諸現象

反語文の意味を理解する手掛かりとして、ここでは否定極性成分の認可と反語文に対する応答形式を取り上げる。前者は、反語文が否定語をどこに含むかという観点からの議論であり、後者は、反語文が会話の共通基盤においてどのような位置づけにあるかという観点からの議論である。

2.1 反語文における否定極性成分の認可状況

2.1.1 英語の反語文における否定極性成分の認可

ここでは、英語の反語文で否定極性成分が認可される事実に基づく議論を紹介する。反語文の統語構造について、生成文法から提案された初期のものに、Sadock(1971)がある。Sadock(1971)は、反語文の深層構造は、疑問文と陳述文の並列からなり、表層構造で陳述文が削除されると述べた。

4) Who would help Jane?

深層構造: Who would help Jane? \wedge No one would help Jane.

表層構造: Who would help Jane? ~~A No one would help Jane.~~

この説を支持する証拠に、強い否定極性成分が反語文で認可される事実がある。Zwarts (1996) によれば、否定極性成分には、(5)のように強いものと弱いものがあり、それらが認可される環境に違いがあるが、否定語の作用域で認可される点については、(6)-(7)に示したように、同じ振る舞いを示す。

5) a. 弱い否定極性成分: any, ever

b. 強い否定極性成分: lift a finger, say a word, give a damn

6) a. Nobody will ever save or lend again if we do that. (COCA, searched at 2024/12/25)

(我々がそんなことをしたら、誰も貯金したり融資したりしなくなる。)

b. *They will ever save or lend again if we do that.

7) a. We will not lift a finger to save the R Party. (COCA, searched at 2024/12/25)

(我々は共和党を救うために指一本動かすつもりはない。)

b. *We will lift a finger to save the R Party.

ところが、両者は、疑問文において異なる振る舞いを見せる。弱い否定極性成分は、疑問文で認可されても、特別な意味を持たないのに対し、強い否定極性成分は、反語文の解釈をもたらす。このことから、反語文には、強い否定極性成分を直接認可する否定語が隠れていると思われる。

8) Did you ever save the prince? (COCA, searched at 2024/12/25)

(これまでに王子様を助けたことがありますか。)

9) Did John lift a finger to help Sam? (Han 2002:204-5)

(ジョンがサムをちょっとでも助けようとしたことがありますか。)

このことから、反語文は、深層構造で否定陳述文を含んでおり、通常の疑問文では認可されない強い否定極性成分を認可していると思われる。

10) Who would lift a finger to help Jane?

(誰がわざわざジェーンを助けるだろうか。だれも助けるはずはない。)

深層構造: Who would help Jane? \wedge No one would lift a finger to help Jane.

表層構造: Who would lift a finger to help Jane? ~~A No one would lift a finger to help Jane.~~

2.1.2 中国語の反語文における否定極性成分の認可

ここでは、中国語の反語文を否定極性成分との共起関係から論じる。中国語では、否定極性成分ではなく、極性成分として研究の対象を広くとることが多い。例えば、Xue and Pan (2023) では、wh 成分、“任何”、“一分钱”などが極性成分として挙げられている。実際、これらは肯定陳述文では容認されず、否定陳述文で認可される。

- 11) a. *张三看了什么书。
 (*張三はどんな本を読んだ。)
- b. 张三没看什么书。
 (張三はどんな本も読まない。)
- 12) a. *我看到了任何学生。
 (*私はどの学生に会った。)
- b. 我没看到任何学生。
 (私はどの学生にも会わなかった。)
- 13) a. *我花了一分钱。
 (#私は一銭を払った。)
- b. 我没花一分钱。
 (私は一銭も払わなかった。) (Xue and Pan 2023:12-3)

これ以外に、純粹に否定語により認可される否定極性成分には、以下の表現がある。¹

- 14) 迟迟、断断、断然、载然、迥然、全然、压根儿、死活、根本 (An 1991)
- 15) 并、迟迟、从、断、毫、决、绝、丝毫、万、万万、压根儿、再也 (Zheng 1996)
- 16) 绝、毫、断、毫发、压根儿 (Shi 2001)
- 17) 迟迟、从、从来、并、压根儿、根本、绝、毫、丝毫、毫发、万、万万、断、断断、断然、断乎、断断乎、全然、死活、始终、再也、千万、决计、切、切切、了(liao)、概、一概 (Sun 2005)

これらの副詞は、否定文でのみ使われ、肯定文では使われない。例えば、以下は“丝毫”と“从来”の例である。

- 18) a. 你丝毫不了解我。
 (あなたはちっとも私を理解してくれない。)

¹ Wu and Wang (2018)に中国語否定極性成分研究のまとめがある。以下はそのまとめから引用している。

b. *你丝毫了解我。

(*あなたはちっとも私を理解する。)

19) a. 我从来不骗你。

(私はいままであなたをだましたことはない。)

b. *我从来骗你。

(*私はいままであなたをだます。)

“什么”のような wh 要素については、疑問の読みも、反語の読みも可能である。もともと、wh 要素はおかれた統語的環境により、その意味を疑問演算子があれば疑問詞、存在量子子があれば不定の指示物、全称量子子があれば総称の意味に変わるだけであるので、疑問詞読みの派生として反語解釈が成立するものと思われる。

20) 张三看了什么书?

(張三はどんな本を読みましたか。)

21) 语境: 张三对看书一点儿也不感兴趣。

(張三は本を読むことに全く興味がない。)

甲: 张三最近爱上看书了。

(張三は最近本を読むのが好きになった。)

乙: 张三看了什么书? 他根本就不看书的!

(張三がどんな本を読んだって? あいつは本なんか絶対読まないよ。)

以下、wh 要素を除く極性成分について、反語文との関わりを述べる。表層上に否定語がない疑問文が得られる検索数は、“任何”、“丝毫”、“一分钱”、“从来”の順に減るため、この順に見ていく。

“任何”については、CCL で“(任何) \$10 (吗)”の検索キー (2024/12/27 検索) で 1103 例、*any* の影響が強いと思われる“翻译作品”の例を除くと 988 例あった。疑問文の解釈 (22) も反語の解釈 (23) も可能であるが、反語を表す“难道”との共起が目立ち、“还”や“能”などが反語の解釈を促進する例も多い (24-25)。

22) 爱上一个人的感觉是怎样的? 爱上一个人时会为他做任何事吗? (= 会为他不做任何事。)

(人を愛する感覚はどんなですか。人を愛すると、彼のためにどんなこともしますか。

≠彼のために何もしない。)

23) 你们认为这种逻辑能够说服任何人吗? (= 这种逻辑不能够说服任何人。)

(あなたたちは、このような理屈に誰もが納得すると思っているのですか。=誰も納得しない。)

- 24) 这难道是任何有血性的人所能容忍的吗? (=这是任何有血性的人不能容忍的。)
 (これは気骨のある人の容認できることですか。=気骨のある人は容認できない。)
- 25) 在这样的情况下, 女工还能有任何自由支配的时间吗? (=女工没有自由支配的时间。)
 (こんな状況下で、女性労働者は自由に使える時間があり得るでしょうか。=女性労働者は自由に使える時間が一切ない。)

“丝毫”については、“(丝毫) \$10 (吗)”の検索キー(2024/12/25 検索)で102例あった。それらのうち、否定語と共起しないものは、反語に解釈される(26)。²また、“任何”の場合と同じく、反語を表す“难道”との共起が目立ち(27)、“还”や“能”など反語の解釈を促進する語を伴う例(28-29)も多い

- 26) 从事颠覆我国人民民主政权的罪大恶极的间谍分子, 他的罪恶活动有丝毫宗教性吗? (=他的罪恶活动没有宗教性。)
 (我が国の人民民主主義政権の転覆に関わる邪悪なスパイである彼の犯罪活動に宗教の要素が少しでもあるだろうか。=宗教的要素が少しもない。)
- 27) 做工具好不好呢? 很好。说做工具是“没有头脑”、“没有出息”, 也就是说, 做党的工具是“不光荣”的“傻瓜”的说法, 难道有丝毫道理吗? (=这个说法没有道理。)
 (道具作りはよいだろうか。とてもよい。道具作りは「頭が悪い」「ぱっとしない」と言うのは、つまり、党の道具を作るのは「不名誉」な「馬鹿者」だということと同じで、一分の理もあるだろうか。=一分の理もない。)
- 28) 一千五百万人口的解放区, 现在被占殆尽了, 那么究竟谁要守约和平, 谁在违约进攻, 这还不十分明白吗? 这还有丝毫狡赖诈骗的余地吗? (=这没有狡赖诈骗的余地。)
 (人口千五百万人の解放区は、現在ことごとく占領された。では、誰が平和を守り、誰が法に反して攻めているのかは、十分明らかではないか。ここにはずる賢い詐欺の余地が少しでもあるだろうか。=ずる賢い詐欺の余地は少しもない。)
- 29) 既然他们能如此热爱生命, 尊崇生命的意义, 竭尽全力伸展双手去抚慰他们爱创爱挫的朋友; 他们对生命之爱, 我能有丝毫逊色吗? 不! (=我不能有丝毫逊色。)

² “丝毫”を含む疑問文のうち、疑問の解釈が得られるように見える例が一例あった。

“慕容博慕容老施主, 当日你假传音讯, 说道契丹武士要大举来少林寺夺取武学典籍, 以致酿成种种大错, 你可也曾有丝毫内疚于心吗?” (=你没有内疚于心。)

(慕容博、慕容老僧、あの日あなたは、契丹の戦士が少林寺に大挙して押し寄せて武術書を奪いに来ると言う嘘の情報を流し、数々の失敗をもたらしました。あなたには少しでも心に疚しさがありましたか。)

この例は、下線部の否定である「あなたには少しも心に疚しさがなかった。」ことを述べたいのではない。その点で、これまで見てきた反語の解釈と同一ではない。ただし、「あなたも心に疚しさを感じるべきである」ということを主張しているとして、反語文の一種とみなすことができる。

(彼らがこれほど命を愛し、人生の目的を大切にできるのだから、全力を尽くして両手を差し伸べ、彼らの創造と挫折を愛する友人たちを慰めようではないか。彼らの命に対する愛にいささかも劣ることができようか。いや、私は悲嘆や自己憐憫で子供を侮辱することはできない。=いささかも劣るができない。)

“一分钱”については、CCLで“(一分钱) \$10 (吗)”の検索キー(2024/12/25 検索)で90例あった。そのうち、否定語を含まないものは以下のように反語に解釈されるようである。

- 30) 他们的人品是值得我们大家尊敬的，毕竟人家是把自己最有心得的体会与理解说给大家的。他们收了我们一分钱的好处了吗？你看了人家的分析或者是点题中了奖，你分给人家一分钱了吗？(=他们没收我们一分钱的好处，你没分给人家一分钱。)

(彼らの人柄は私たちみんなの尊敬に値するし、結局のところ、彼らは自分が一番よく知っていることについての経験と理解をみんなに解説しているのである。彼らは私達から一銭でも受け取っていますか。彼らの分析や指摘を読んで懸賞に当たったとしても、かれらに一銭でも分け与えましたか。=彼らは一銭も受け取っていない、彼らに一銭も分け与えていない。)

“从来”については、“(从来) \$10 (吗)”の検索キー(2024/12/25 検索)で282例あった。ほとんどが否定語と共起しているが、共起しないものは、以下のように反語として解釈される。なお、(32)のように“都”と共起する例も見られたが、この場合の“从来”は“都”と組み合わせられて「常に」という意味を表しており、“都”により認可されているとみなされる。

- 31) 你们的工厂或商店里，工人和店员们本着发展生产劳资两利的精神，约束着自己的待遇，积极地生产和营业，私营企业的生产和经营效率从来有过这样高吗？生产秩序从来有现在这样好过吗？(=生产和经营效率没有这样高。生产秩序没有现在这样好过。)

(あなたたちの工場や商店では、労働者や店員は労働と資本の双方の利益のために生産を発展させるという精神の下、自分たちの待遇を制限し、積極的に生産し営業している。私営企業の生産と操業の効率がこれほど高かったことが今までにあったらどうか。生産の秩序がこれほど良好だったことが今までにあったらどうか。)

- 32) 对于个人利益需要保护，但对自私思想则必须反对。因为，自私是把个人利益放在第一位，把一己私利看得高于一切，重于一切，一事当前先为自己打算，并且往往为了个人利益的满足，不惜损害他人和整体的利益。人从来都是自私的吗？不是。

(個人の利益は守られるべきだが、利己主義には反対すべきである。なぜなら、利己主義は個人の利益を第一に置き、個人の利益をなによりも優先させ、価値を置き、何事もまず自分のために計画し、個人の利益を満たすために、しばしば他の人や全体の利益を損なうことをためらわない。人は常に利己的だったのだろうか。いや違う。)

まとめると、“任何”、“丝毫”、“一分钱”、“从来”のうち、“任何”を含む疑問文は疑問解釈と反語解釈があり、“丝毫”、“一分钱”、“从来”を含む疑問文は反語解釈しかない。このことから、前者は弱い否定極性成分、後者は強い否定極性成分に相当し、後者は疑問文に現れたときに、反語解釈でのみ認可されると言える。

ただし、英語と異なるのは、上記に上げたような反語解釈の疑問文が、多分に技巧的な修辭文である点である。口語の単純な疑問文に否定極性成分を入れると、不自然または非文となる。

33) 甲：你是不是骗人？

(あなたは人を騙しているの？)

乙：我哪有骗人？ (= 我不骗任何人。) / ?我哪有骗任何人？

(どこが騙しているって？ / *どこが誰も騙しているって？)

34) 甲：你有没有钱？

(お金ある？)

乙：我哪有钱？ (= 我没有钱。) / ?我哪有丝毫钱？

(どこにお金があるって？ / *どこにお金がちよつともあるって？)

35) 甲：你是不是骗我？

(私を騙しているの？)

乙：我哪有骗过你？ (= 我没骗你。) / *我哪有从来骗过你？

(どこが騙しているって？ / ?どこがこれまで騙したことがあるって？)

36) 甲：你最近是不是又花钱买东西了？

(最近また散財してものを買ったの？)

乙：{我哪有花钱？ (= 我没花钱。) / *我哪有花一分钱？} 我只是看看而已，没买啊。

({どこが散財したって？ / *どこが一銭も散財したって？} 見てただけで、買っていないよ。)

2.1.3 日本語の反語文における否定極性成分の認可

日本語の否定極性成分には、wh成分+「も」、「決して」、「しか」、少量表現+「も」、「二度と」、「碌な」などがある。これらは否定文でのみ使われ、肯定文では使われない。ただし、wh成分+「も」と少量表現+「も」に関しては、「も」の前に格助詞を伴うとき、否定極性成分ではなくなる。以下の議論でも、格助詞を伴わない形式のみ論じる。

37) a. 誰も知らない。

b. *誰も知っている。

38) a. 我々は決して負けない。

b. *我々は決して負ける。

- 39) a. 大会には太郎しか行かない。
b. *大会には太郎しか行く。
- 40) a. ちっとも寂しくない。
b. *ちっとも寂しい。
- 41) a. 一銭も払わなかった。
b. *一銭も払った。(「一銭」の価値が高い文脈では可。「少ない」意味では不可。)
- 42) a. 二度と来ない。
b. *二度と来る。
- 43) a. 碌な番組がない。
b. *碌な番組がある。

これらの否定極性成分が疑問文に現れたとき、非文になる場合と、反語解釈をもたらす場合に分かれる。

- 44) *誰も知っていることがありますか。(=誰も知らない。)
- 45) 我々が(*決して)負けることがありますか。(=我々は決して負けない。)
- 46) 大会に太郎{が/*しか}行くようなことがありますか。(=太郎しか行かない。)
- 47) *ちっとも寂しいなんてことがありますか。(=ちっとも寂しくない。)
- 48) *一銭も払いますか。(=一銭も払いません。)³
- 49) こんな店に二度と来ますか。(=二度と来ません。)
- 50) 正月に碌な番組がありますか。(=碌な番組がない。)

wh成分+「も」、「決して」、「しか」、少量表現+「も」については、疑問文に現れた時、反語解釈を誘発せず、非文となる。一方、「二度と」、「碌な」などは疑問文に現れて反語の解釈をもたらす。そこで、前者は英語や中国語にないタイプの否定極性成分(ここでは、完全否定極性成分と呼ぶ)、後者は強い否定極性成分に相当すると思われる。

以上、英語、中国語、日本語の否定極性成分と反語文での認可状況をまとめたものが表1である。

³ 「一銭だって払いますか」は反語として解釈されるが、これも格助詞を伴う「一銭でも」と同じく、否定極性成分ではなく、語彙としてスケール含意を導入していると考えられる。

表1 反語文における否定極性成分の出現状況

疑問文に現れる要素	英語	中国語*	日本語
弱い否定極性成分	any, ever	任何	—
強い否定極性成分	lift a finger, budge an inch	丝毫、一分钱、从来	二度と、碌な
完全否定極性成分	—	—	誰も、何も、決して、しか、ちっとも、一銭も

*中国語では、否定極性成分を含む疑問文の反語解釈は、書面語で得られる。

—は未確認を表す。

以上から、強い否定極性成分が疑問文に現れると、どの言語でも反語の解釈をもたらすことが分かる。そこで、どの言語でも、反語文においては、否定極性成分を認可する否定語が何らかの形で存在することが予想される。一方で、言語やレジスターにより、反語では認可されない否定極性成分もあることが分かる。

2.2 反語文への応答形式

この節では、反語文への応答形式の違いから、その断定命題の談話上の位置づけについて論じる。談話の定義は、形式意味論によるため、始めに形式意味論の概念を説明し、その後、英語、中国語、日本語の状況を述べる。

2.2.1 陳述文と疑問文の定義

Tarskian Semantics では、陳述文の意味は真か偽であることを基本としていたが、Hamblin Semantics の導入で、疑問文の意味はその可能な答えの集合であるとして定義された。その後の可能世界意味論になると、陳述文も疑問文も可能世界の集合として定義される。さらに、語用論の形式化が進み、断言という行為が会話の共通基盤に基づいて定義された。

51) 陳述文の意味：

$\{1, 0\}$

その陳述文の表す命題が真であるような可能世界の集合

52) 疑問文の意味：

その疑問文に対する答えを表す命題の集合 (Hamblin 1972)

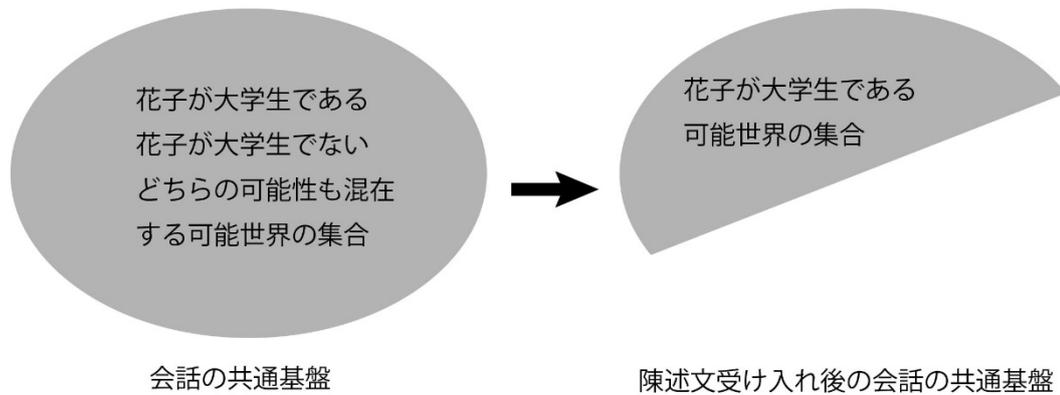
その疑問文に対する答えを表す命題を真にする可能世界の集合からなる集合 (Groenendijk and Stokhof 1984)

53) 断言(assertion):

命題が真であると述べる事。Stalnaker の定義では、会話の共通基盤 (=話し手と聞き手の共有知識) に命題を追加すること。

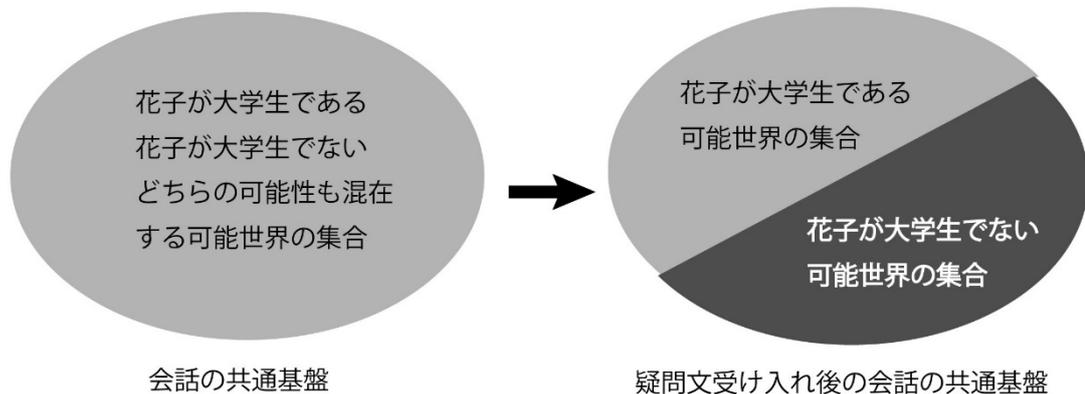
以下、陳述文と疑問文が、会話の共通基盤に作用するあり方を説明する。陳述文が発話され、会話の参与者に受け入れられる（＝断言が成立する）と、(54)のように、会話の共通基盤は縮む。一方、疑問文が発話されると、(55)のように、会話の共通基盤は分割される。

54) 花子は大学生です。（陳述文）



このように、会話が進むと、話し手と聞き手が共有していると認めて確定した命題の数は増える一方で、共通基盤は会話が進むと縮む。

55) 花子は大学生ですか？



このように、疑問文が発話されると、それまでの会話の共通基盤が分割され、聞き手がどの可能世界の集合に限定されるかを定める（疑問を解決する）まで、分割は解除されない。

2.2.2 英語における反語疑問文への応答

反語文が成立する条件には、その断定する命題がすでに会話の共通基盤に存在しているということが言われている。例えば、Caponigro and Sprouse (2007) は以下のように反語文

(Rhetorical Questions) と疑問文 (Ordinary Questions) を区別している。

- 56) a. Q is a Rhetorical Question iff $[[Q]]^w$ is an element of the common ground of both the speaker and the addressee.
 b. Q is an Ordinary Question iff $[[Q]]^w$ is not an element of the speaker's beliefs.

これを受けて、Biezma and Rawlins (2017) は、反語疑問文は、その答えが会話の共通基盤の一部であることを前提とすると述べた。例えば、(57)が反語文として解釈されるには、“John drinks”という命題が共通基盤にあらかじめ含まれている必要がある。

57) Doesn't John drink?

58) $[[(57)]]$ = $\{\lambda w_s. \text{John drinks}\}$

Defined only if $\forall w \in c: \exists p \in [[(57)]]: p(w)$

(w_s is a possible world in the information state s , w is a possible world, c is the Stalnakerian context, p is a proposition variable.)

この前提は、反語文が発話された際に、文脈との相互作用により、調整して得られる（語用論的調整で得られる）。Biezma and Rawlins (2017) は、反語文の語用論的調整を経て得られた命題は、通常の陳述文により得られた命題と異なり、後続文脈で指示することができないことを挙げ、反語文の断定する陳述命題はアクティブな情報状態にないと指摘している。

Biezma and Rawlins (2017) によると、英語では、反語文への反応として、その命題を述べた相手が正しいことを表現するタイプ（同意型）の反応をすることはできるが、命題を指示詞で指してその真偽を述べるタイプ（真偽型）の反応をすることはできない。

59) (Scenario: Professor is complaining about the amount of work to the Ph.D student.)

Professor: Are you doing your PhD or vacationing in Konstanz?

Student: You are right. / #That's not true!

60) (Scenario: John has just poured a gallon of iced water over Tim's head for fun.)

Tim: Are you an idiot?

John: {You are right / #That's not true}, I shouldn't have done that.

(Biezma and Rawlins 2017:304)

You are right は同意型の表現、*That's not true* は真偽型の表現であるが、英語では前者のみが可能である。Biezma and Rawlins (2017) はこの違いについて、反語文が断言する命題を会話の共通基盤に受け入れるやり方が、陳述文の導入する命題を受け入れるやり方と異な

るからであると説明している。陳述文の命題の受け入れと、反語文の断言する命題の受け入れの違いは以下の通りである。

- 61) a. 陳述文は、それを発話した時点で、陳述文の表す命題が共通基盤に入る。そこで、後続会話でその命題を指示して議論することもできる。
 b. 反語文は、発話を受け入れる時点で、語用論的调整により、反語文の断言する命題内容が前提に追加される。そのため、反語文の命題を、後続文脈で指示することができない。

語用論的调整とは、ある発話に伴い、その前提、つまり、その発話の真偽に関わらず成立する命題を、会話の共通基盤に含めることを指す (Lewis 1973)。前提とは、文が適切に使用されるために必要な条件のことであり、以下の特性を持つ (Kadmon 2001:11)。

- 62) 前提の特性1：文が真理値を持つためには、前提が成立していなければならない。
 前提の特性2：文が否定されても、前提は依然として成立している。

例：The king of France is bald.

前提：The king of France exists.

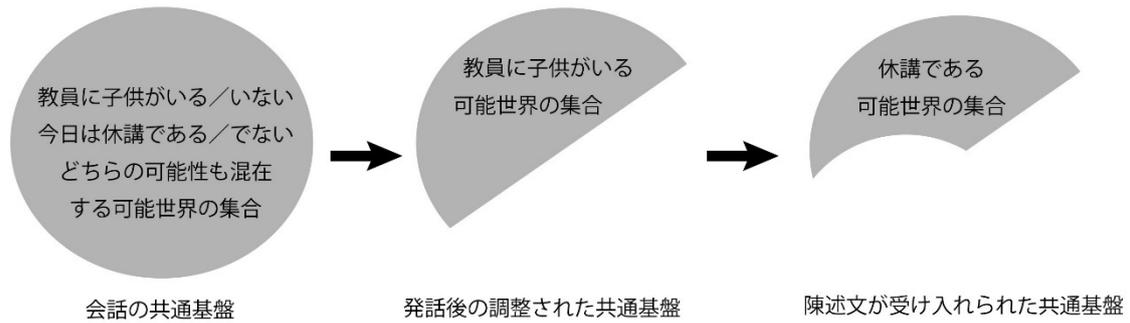
The king of France is bald という文が真偽判断できるためには、*the king of France* が存在することが前提である。また、*The king of France isn't bald* という文においても、この定名詞句の指示する物の存在は前提とされる。よって、*The king of France* が存在するかどうか知らない人が *the king of France is bald* という文を聞いたとしても、定名詞句の存在前提は語用論的调整を経て会話の共通基盤に追加される。

日本語の会話でも、聞き返しの間投詞に、断定と前提の違いが反映される。ある教員が教室に現れて(63)の発言をし、学生はその教員に子どもがいることを知らなかった場合、断定された情報「今日は休講だ」に対する確認は「本当に」という言葉で始められるが、調整された前提「教員に子供がいる」に対する確認は、「あれっ」で始められる。

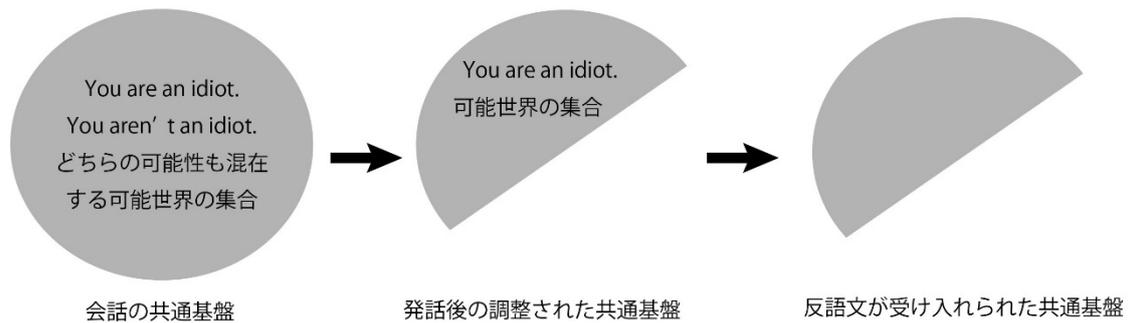
- 63) 教員：子供が熱を出したので、今日は休講です。
 学生1：{本当に/#あれっ}、今日は休講なんですか。
 学生2：{#本当に/あれっ}、先生にお子さんがいたんですか。
 64) 断定された情報：今日は休講だ。
 調整された前提：教員には子供がいる。

以下、陳述文が発話された場合と、反語文が発話された場合の会話の共通基盤の変化を図示する。

65) 陳述文「子供が熱を出したので、今日は休講です」前後の会話の共通基盤の変化



66) 反語文 *Aren't you an idiot?* 前後の会話の共通基盤の変化



陳述文の断言により導入された命題は、共通基盤の中でもアクティブな情報状態にあり、後続する文脈で指示詞を使って指し、その真偽を論じることができる。ところが、反語文に伴う語用論的調整で導入された命題は、共通基盤の中にあってもアクティブな情報状態ではなく、指示詞で指して真偽を論じることができない。その違いが、(59)-(60)に示したように、反語文の応答には同意型の表現のみ許され、真偽型の表現が許されない理由であると Biezma and Rawlins (2017) は説明している。

2.2.3 中国語における反語文への応答

次に、中国語の反語文への応答にどのようなものがあるかを見る。中国語については、冯江鸿 (2004) が、反語文に対して同意または異議を唱えることができるという主張の根拠として、以下の例を挙げている。(日本語訳と容認度の判断は発表者による。)

67) 马五爷：二德子，你威风啊！

二德子：（看到马五爷）喝，马五爷，您在这儿呢？我可眼拙，没看见您！

马五爷：有什么事好好地说，干吗动不动地就讲打？

二德子：喳！您说得对！我到后头坐坐去。……

馬五爺：二徳子、立派だね！

二徳子：(馬五おじいさんを見て) 飲みなさいよ、馬五おじいさん、ここにいたのだね、
目が悪くて気が付かなかったよ！

馬五爺：何かあれば話さない、どうしてすぐに喧嘩なんて言うのかい。

二徳子：#あなたの言う通りです。／その通りだね。私はひっこんでいましょう。

68) ……

方雨林着急地问：“你看顾副书记的表情……”

郭强说：“那怎么能看得出来？干了几十年的领导工作，能让你从他脸上看出内心想法？”

方雨林忙点头称是：“那倒也是……”

方雨林は心配そうに聞いた。「顧副書記の顔を見てください…。」

郭強は言った。「どうして見てわかりますか。何十年も幹部の仕事をしてきた人なのに、その顔を見ただけで何を考えているか、あなたにわかりますか。」

方雨林は急いでうなずいて言った。「#あなたの言う通りです。／それもそうですね。」

69) 爷爷：咱们这不是瞎闹吗，帮了半天忙人家也没感谢咱们，警察去了也没咱们事。

孙子：爷爷，你说的不对，在这种情况下我们每一个人都应该救他。

おじいさん：私たちはいたずらに騒ぎ立てたっていうのか、助けてあげたのに感謝もしないで、警察が行っても私たちのことはなしだ。

孫：おじいさん、#あなたは間違っている。／そうじゃない。この場合は私達一人一人が彼を助けるべきなんだよ。(冯江鸿 2004：74)

中国語の反語文への反応としては、“您说得对！”や“你说的不对”のように、同意型も、“那倒也是……”のように真偽型もある。一方、その日本語の訳をみる限りは、同意型はこの文脈では不自然であり、「その通りだね」、「それもそうですね」、「そうじゃない」のようにソ系指示詞で命題を指し、真偽について論じる真偽型となる。実際、次の節で見ると、日本語のコーパスや研究でも、ソ系指示詞による応答はしばしばみられる。

2.2.4 日本語における反語文への応答

案野(2019)によると、日本語の反語文専用の表現として、「たまるか」、「ものか」、「たまるものか」などがある。そこで、BCCWJで「たまる／か」で検索したところ、ソ系指示詞を使って指示する例が見られた。

70) やめるなんていやだ。オレはこうするのが好きなんだ。こそこそしてたまるか！そう思いながら、私はそのサラリーマンをにらみ返しました。(宋文洲著『努力しているヒマはない！』BCCWJ/01/01 検索)(=こそこそしてたくない。)

71) 幸薄いたしの方の最期を、心ない野次馬たちの見世物にしてたまるか。そう思うと願念はまた、ひときわ声を高くした。(神坂次郎『海の伽耶琴』BCCWJ/01/01 検索)(=たし

の方の最期を野次馬たちの見世物にしたくない。)

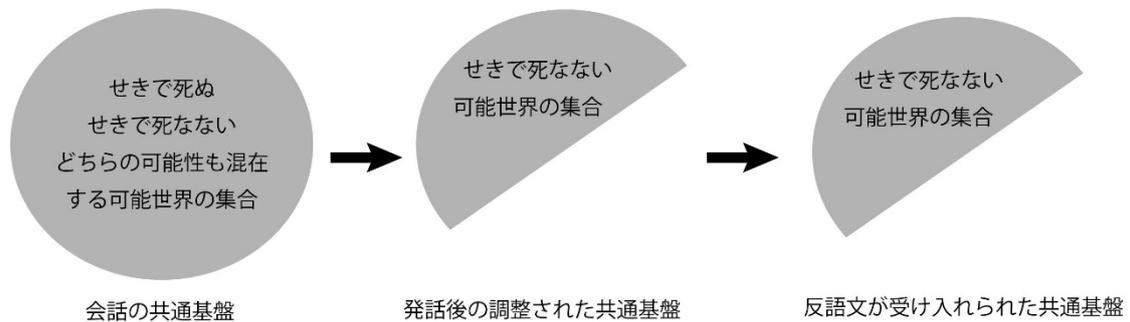
72) A: せきなんか、どうってことない。せきで死ぬわけではない。せきなんかで死んでたまるか。(=せきでは死なない。)

B: そりゃそうだーしかしねえ、おどかすわけじゃないけどーちゃんと用心だけはしたほうがいいって。(エドガー・アラン・ポー著、金原瑞人訳『モルグ街の殺人事件』BCCWJ2025/01/01 検索)

(70)-(71)では、「そう思う」という形で、反語文の発話者自身により、反語文の断定する命題が指示されている。(72)では、反語文の聞き手が「そりゃそうだー」という形で、反語文の断定した命題を指示して肯定している。そのため、反語文が受け入れられた共通基盤にも、以下のようにこの命題が存在していなければならない。

73) A: せきで死んでたまるか。(=せきでは死なない。)

B: そりゃそうだー。(=「せきでは死なない」という命題は正しい。)



以上から、日本語では、反語文に対する反応として、断定された命題をソ系指示詞で指し、命題の真偽を述べるのが自然であり、相手が正しいかどうかを述べるのは不自然であることが分かる。以上の観察に基づき、英語、中国語、日本語の反語文に対する応答の違いをまとめると以下ようになる。

表2 反語文に対する応答の違い

	英語	中国語	日本語
同意型	You are right.	你说得对。 你说得不对。	#あなたの言う通りだ。 #あなたは間違っている。
真偽型	#That's not true.	那也是。	そうだよ。それもそうだね。 そうじゃない。

英語では、同意型のみが可能であり、中国語では、同意型と真偽型のどちらのタイプの応答も可能、日本語では真偽型のみが可能である。

2.3 否定極性成分の認可状況と反語文への応答形式の違いが意味すること

以上、2.1では、反語文における否定極性成分の認可が3言語で認められること、2.2では、反語文に対する応答形式が言語によって異なることを見た。否定極性成分がどの言語の反語文でも認可されることがある以上、表層の語配列とは異なる否定陳述文がどこかに存在している必要がある。一方、応答形式の違いは、その存在している否定陳述文へのアクセスが可能かどうか言語による違いがみられるということである。この違いには、次の二つの観点からの説明があり得る。

- 74) a. 言語により、反語文の断言する命題が格納される場所が異なる。
 b. “That”、“那”、ソ系指示詞の指示できる範囲が違う。

(74a)は Sadock の反語文の断言する命題は深層構造にあるという観点を発展させ、言語により格納され方が違うと考えるものである。一方、(74b)は各言語の指示詞の違いから説明するものである。例えば、“那”やソ系指示詞は、文脈指示の用法の拡張として、表層構造に見えないものを指示できるが、“that”にはそのような用法がないと説明することもできよう。だが、その場合には、同意型の反応が日本語では許されないことを説明するために、会話における2人称使用の習慣など、他の観点も導入する必要があり、場当たりの説明となってしまう。

本発表では、そこで、(74a)の観点からの説明を試みる。つまり、共通基盤にある命題は、すべて同じ状態にあるわけではなく、アクティブな情報状態にあるものと、そうでないものがあると考え、反語文の断言する命題の置かれる状態の言語による違いについて、以下の仮説を提案する。

- A) 英語では、反語文の表す陳述命題は前提の一部となり、アクティブな情報状態にない。否定極性成分の認可は前提において行われる。
 B) 中国語では、反語文の表す陳述命題は、書面語では前提の一部となるが、口語では新たに作られた情報状態にあり、否定極性成分の認可は前提においてのみ行われる。
 C) 日本語では、反語文の表す陳述命題は、新たに作られた情報状態にあり、完全否定極性成分の認可は新しい情報状態が作られる前に行われなければならない。したがって、完全否定極性成分は否定語にアクセスできず、認可されない。

3. 反語文の意味論

本発表は、反語文の意味を動的意味論の枠組みで分析する。3.1で動的意味論の枠組みを説明した後、3.2で反語文に応用を試みる。

3.1 動的意味論の枠組み

動的意味論は Heim (1983) の File Change Semantics に基づく。File Change Semantics では、命題が不定名詞句を含んでいれば、その不定名詞句の指示物にインデックスを与え、一つのカードの新規作成を行う。もし定名詞句を含んでいれば、すでにあるカードの更新を行う。これらのカードは、情報状態と呼ばれ、積み重ねられて文脈を表すファイルを形成する。

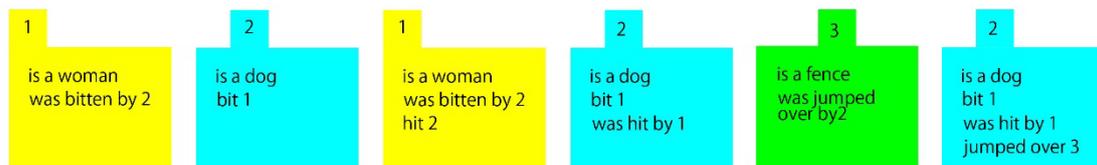
75) If the proposition is about an indefinite noun, start a new card.

If the proposition is about a definite noun, update the card.

76) a. A woman was bitten by a dog. (カード1とカード2が作られる)

b. She hit it. (カード1とカード2に情報が追加される)

c. It jumped over a fence. (カード3が作られ、カード2に情報が追加される)



定名詞句は、すでに作られた情報状態に対する情報の追加となり、これが定名詞句指示物の存在前提である。ただし、仮定節においては、この存在前提が満たされなくてもよいことを指摘した。

77) If the present king of France is bald, his son will be bald.

File Change Semantics を仮定節の分析に応用した Roberts (1989), Kaufmann (2000) らは、Modal subordination という仕組みで仮定節が文脈を形成するファイルにどのような作用をするかを説明した。仮定節は新しい情報状態を作り、帰結節の情報もその情報状態に書き込まれる。そして、この仮定文の情報状態はそのまま除去されてもとの情報状態に戻る。

78) Don't forget to lock the door. If a wolf comes in, it eats you first.



この仕組みを発展させ、Isaacs and Rawlins (2008) は、次のような仮定節を持つ疑問文の分析を提案した。この種の疑問文は、仮定節を伴わない疑問文と異なり、問われたことをキ

キャンセルするような答え方 (Issue dispelling effect) がある。

79) If Alfonso comes to the party, will Joanna leave?

Positive answer: Yes, she will.

Negative answer: No, she won't.

Issue dispelling answer: Alfonso isn't coming.

このような答え方は、仮定文を丸ごと否定することで得られるのだが、それは、Modal Subordination に疑問の操作を加えて説明することができる。

まず、Isaacs and Rawlins (2008) の提案は、文脈命題会話の共通基盤がスタック状に積み重ねられて形成するマクロ文脈 (macro-context) を基本とする。

80) Definition: macro-context

a. $\langle \rangle$ is a macro-context.

b. If c is a Stalnakerian context and s is a macro-context, then $\langle c, s \rangle$ is a macro-context.

c. Nothing else is a macro-context.

d. If s is a macro-context, then s_n is the n th context (counting from 0 at the top) and $|s|$ is its size (excluding its final empty element).

このスタック状のマクロ文脈に対し、命題が発話されると、適切な文脈 c が作られ、以下の push operator により、それまでのマクロ文脈の上に重ねられる。

81) Definition: push operator

For any macro-context s and context c : $\text{push}(s, c) =_{\text{def}} \langle c, s \rangle$

当該命題が会話の参加者によって拒否されると、スタックから c が除去される。その操作は次の pop operator で行われる。

82) Definition: pop operator

For any macro-context $\langle c, s' \rangle$: $\text{pop}(\langle c, s' \rangle) =_{\text{def}} \langle c, s' \rangle$ if $s' = \langle \rangle$, s' otherwise

マクロ文脈の集合論的意味は以下のように可能世界の対の集合として与えられる。

83) Definition of \vdash

For any contexts c and c' , and c'' :

$\vdash(c, c', c'') =_{\text{def}} \{ \langle w_1, w_2 \rangle \in c \mid \neg \exists w \in W \text{ such that } \langle w_1, w \rangle \in c' \text{ or } \langle w, w_2 \rangle \in c'' \}$

陳述文と疑問文がマクロ文脈に対して持つ作用は、以下のようにそれぞれ定義される。

84) Assertive update on macro-contexts

For any macro-context s and clause ϕ :

$s + [\text{Assert } \phi] =_{\text{def}} s'$ where $|s'| = |s| = n$

and $s'_i = \vdash(s_i, s_0, s_0 \oplus \phi)$ for all $i, 0 \leq i < n$

85) Inquisitive update on macro-contexts

For any macro-context $\langle c, s' \rangle$ where c is the top member, and s' is a stack, and clause ϕ :

$\langle c, s' \rangle + [\text{Question } \phi] =_{\text{def}} \langle c \oslash \phi, s' \rangle$

ここで、Isaacs and Rawlins (2008) は、以下のような疑問文についての制約を課す。

86) Inquisitiveness constraint

A macro-context may not be popped if the top element is inquisitive.

この制約は、(79)のような仮定節を持つ疑問文への Issue dispelling effect を説明するためである。この制約により、仮定節の内容を保持したままであれば、肯定または否定の応答しか許されない一方で、仮定節の内容を含むマクロ文脈をまとめて除去することは依然として可能である。

3.2 反語文の意味論

Isaacs and Rawlins (2008) の動的意味論を反語文の分析に応用するにあたっては、まず問題になるのが、疑問文により分割された文脈は除去できないという Inquisitive constraint である。反語文は統語上、疑問文であり、マクロ文脈に対して Inquisitive update を行う。マクロ文脈最上段にある疑問文脈は分割された状態にあり、答えが与えられなければ、次の操作に進むことができない。一方、Inquisitive Constraint により、疑問文脈だけを除去することは禁止されているため、疑問文脈になった時点で他の操作はできないことになる。

本発表では、反語文に対して、すでに文脈に疑問文に対する答えの命題がある場合に限り、pop operator を使う操作 Rhetorical resolution of inquisitive contexts (Rh) を提案する。

87) Rhetorical resolution of inquisitive contexts (Rh)

For any macro-context $\langle c \oslash \phi, s' \rangle$ where $c \oslash \phi$ is the top member such that the context c is partitioned by ϕ , and s' is a stack,

$\text{Rh}(\langle c \oslash \phi, s' \rangle) =_{\text{def}} \text{pop}(\langle c \oslash \phi, s' \rangle)$

only if $\forall w \in c: \exists p \in \llbracket \phi \rrbracket: p(w)$

さらに、英語や書面中国語では、Rhetorical resolution の操作と同時に、語用論的調整の操作 (Acc)を通して陳述命題 $\neg\phi$ がスタックの中に含まれるようになる。

88) Pragmatic accommodation (Acc)

For any macro-context s and clause ϕ :

$s + [\text{Acc } \phi] =_{\text{def}} s'$ where $|s'| = n+1$, and $|s| = n$

and $s'_i = \vdash(s_i, s_0, s_0 \oplus \phi)$ for all $i, 0 \leq i < n$

強い否定極性成分の認可は、語用論的調整をする際に同時に行われ、陳述命題中にある \neg により認可される。一方、後続文脈から見ると、陳述命題 $\neg\phi$ は、反語文が発せられる前の文脈に含まれており、アクティブな情報状態にはない。そのため、指示詞で指示することはできず、代わりに、会話の参加者が正しいかどうかを述べる同意型 *you're right* で応答する。

一方、口語中国語や日本語では、Rhetorical resolution と同時に、反語文 $\phi?$ の表す陳述命題 $\neg\phi$ を含む新しいマクロ文脈が作り出される。これは通常のア断更新 (Assertive update) を通して行われる。ところが、ア断で得られた陳述命題に、否定極性成分が引き継がれないため、その認可ができない。よって、反語文で否定極性成分が認可されない事態が引き起こされる。一方で、反語文の表す陳述命題 $\neg\phi$ は、新しく作成されたマクロ文脈の最上段に位置し、アクティブな情報状態であるため、指示詞で指すことができる。以下、文脈の流れを示す。

89) 英語、書面中国語

$\langle c, s \rangle$

↓ $\phi?$ (Inquisitive update)

$\langle c \otimes \phi, s \rangle$

↓ $\neg\phi$ (Pragmatic accommodation)

$\langle c \otimes \phi, s \oplus \neg\phi \rangle$ 否定極性成分の認可が行われる

↓ (Rhetorical resolution of inquisitive contexts)

$\langle c, s \oplus \neg\phi \rangle$ That による $\neg\phi$ の指示は不可

90) 口語中国語、日本語

$\langle c, s \rangle$

↓ $\phi?$ (Inquisitive update)

$\langle c \otimes \phi, s \rangle$

↓ (Rhetorical resolution of inquisitive contexts)

$\langle c, s \rangle$

↓ $\neg\phi$ (Assertive update) 否定極性成分は未継承につき、認可されない。

$\langle c \oplus \neg\phi, s \rangle$ 那、ソ系指示詞による $\neg\phi$ の指示は可能

以上、反語文の表す陳述命題が文脈に格納されるやり方に二種類あることを提案した。英語では陳述命題は前提として、マクロ文脈の中の下位のスタックに組み込まれるのに対し、日本語では、新しい文脈として、マクロ文脈の最上段に組み込まれる。中国語では、書面語では英語と同じようにマクロ文脈の下位スタックに組み入れられ、口語では日本語と同じようにマクロ文脈の最上段に組み込まれる。反語文のもたらした疑問文脈が Rhetorical resolution により削除された後、反語文の表す陳述命題がどのように文脈に格納されるかにより、否定極性成分の認可と反語文の陳述命題を応答の中で指示することができるかどうかの違いが引き起こされる。

なお、Rhetorical resolution が一旦行われてしまうと、陳述命題 $\neg\phi$ を復活することが難しくなるため、Pragmatic accommodation や Assertive update がどのタイミングで陳述命題 $\neg\phi$ を獲得するかという問題が残されている。また、日本語の否定極性成分の種類による認可状況の違いも、明らかにする必要がある。これらは今後の課題としたい。

4. 反語文のプロソディと意味論の関わり

ここでは、反語文の英語、中国語、日本語におけるプロソディの違いを紹介し、3節で提案した反語文の意味論との関係を論じる。

4.1 反語文のプロソディ

本研究では、中国語の反語文のプロソディについて、詳しく見る。従来の研究では、“吗”を伴う yes/no 疑問文と wh 疑問文が研究の対象であったが、本研究では、反語文の形式を広げてそのプロソディを確認した。于天昱 (2018) の挙げた反語文とその文脈の例を基に、10例の様々な疑問文を選び、それぞれに反語文解釈を誘発する文脈と疑問文解釈を誘発する文脈を作文した。10例の中には、“吗”疑問文、wh 疑問文(谁, 什么, 哪儿, 怎么, 为什么)、緊縮複文疑問文、正反疑問文、選択疑問文が含まれる。さらに、中国語母語話者にその文脈における疑問文の機能として“责怪”、“辯駁”、“埋怨”、“疑問”、“其他”から一つを選ばせた上で、対応する文脈にふさわしい言い方で疑問文を読み上げさせ、それを録音して分析している。反語文の機能を、“责怪”、“辯駁”、“埋怨”の三つに限定して選択肢を設定したのは、于天昱 (2018:4章) の「反語の機能において、最も多いのは、“责怪”、“辯駁”、“埋怨”の三つで、70%を占める」という観察に基づいている。ただし、他の30%には以下のようにいろいろな概念が含まれている。

91) 于天昱(2018:3章)による反語文の表す機能の分類

核心功能类 (3 种) 辯駁 怨責 困惑

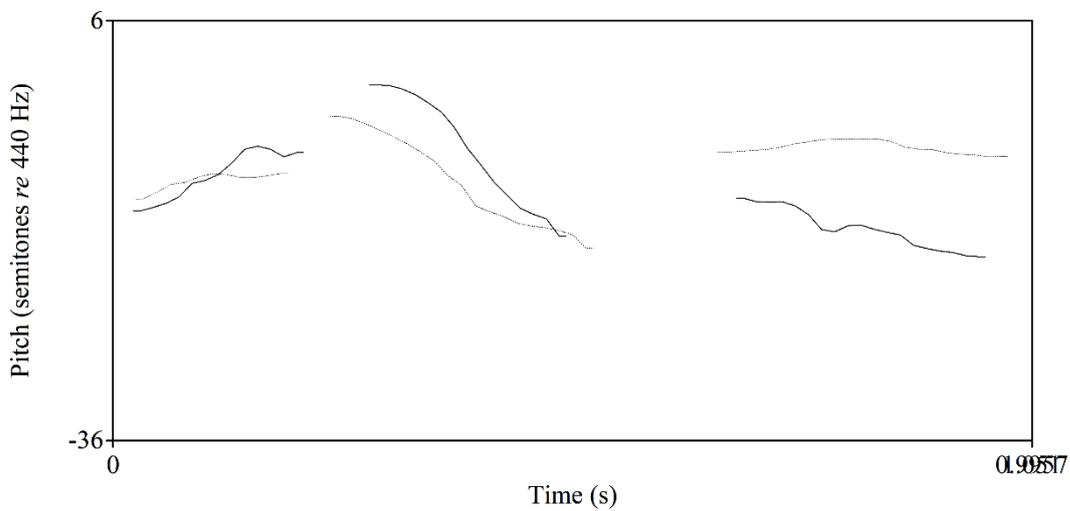
衍生功能类 (4 种) 确认 提醒 催促 阻止

不太常用的功能类型 (5 种) 调侃、讽刺 劝解、建议 客套 出乎意料 鼓励

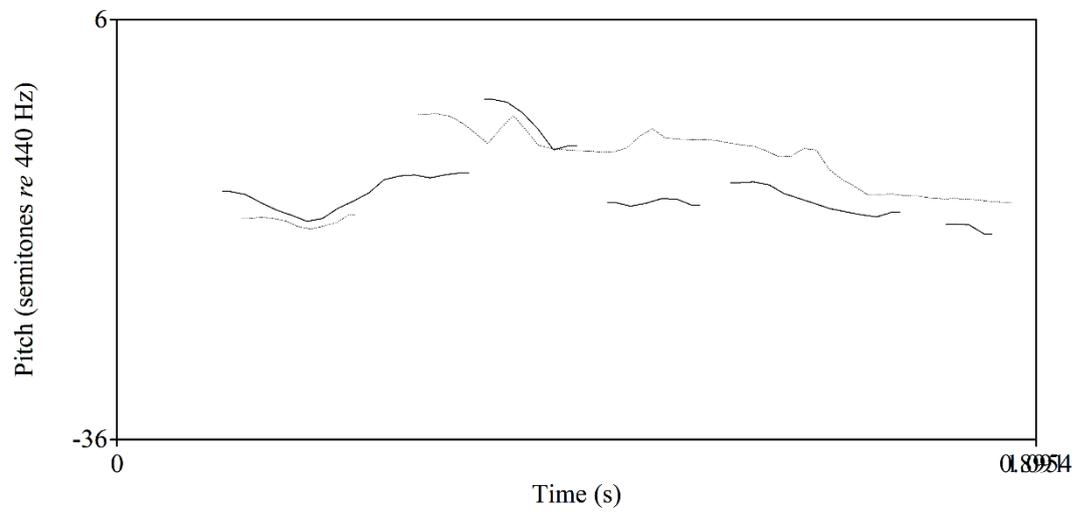
このうちの三つの中心的機能タイプ（核心機能類）を反語の選択肢として設定したが、三つ以外の機能で反語文として判断をする場合のために、“其他”という選択肢を作り、自由記述の欄を設けた。得られた回答のうち、“疑問”を選んだ場合を疑問文解釈、それ以外の場合を反語文解釈と考え、録音音声の比較を行った。

現在、まだプレテスト段階にあり、ここでは、音声録音に協力した話者一人の分析を以下に紹介する。以下は、反語文脈で発話されたピッチ曲線（実線）と疑問文脈で発話されたピッチ曲線（点線）を重ね合わせたものである。発話の継続時間は、反語文脈の方が長いことが多いが、以下の図ではほぼ同じ長さに揃えて重ねている。

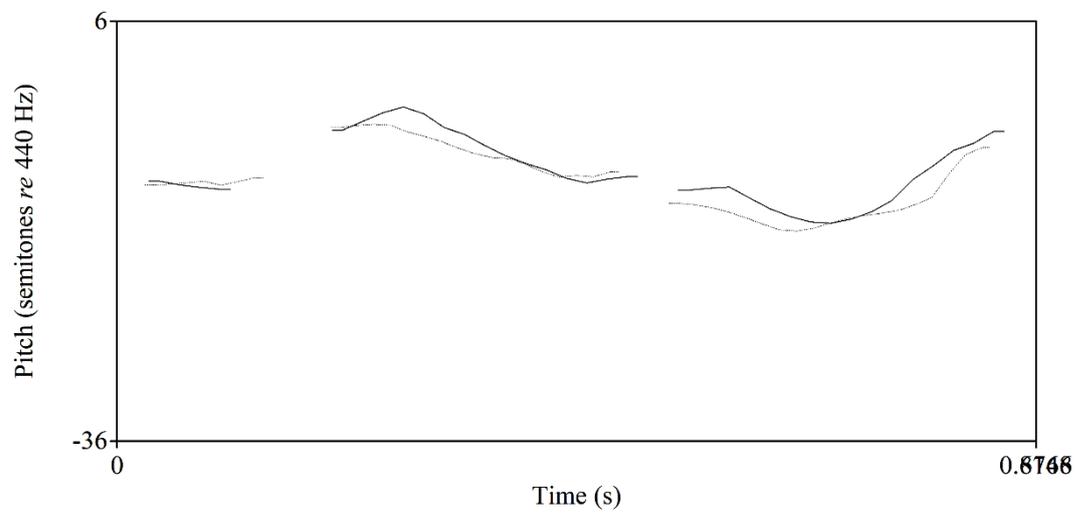
例1 您是老师吗？



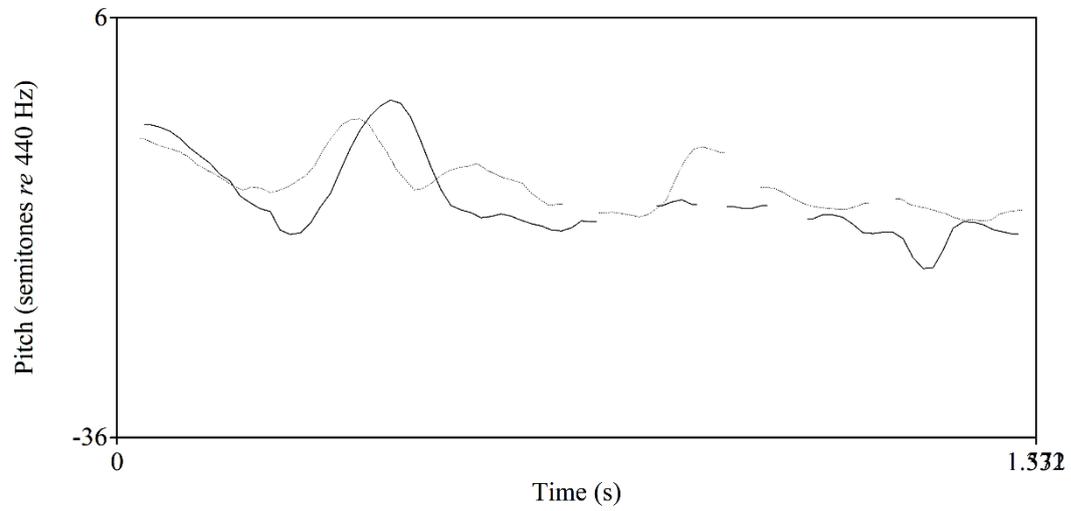
例2 谁是他爸爸？



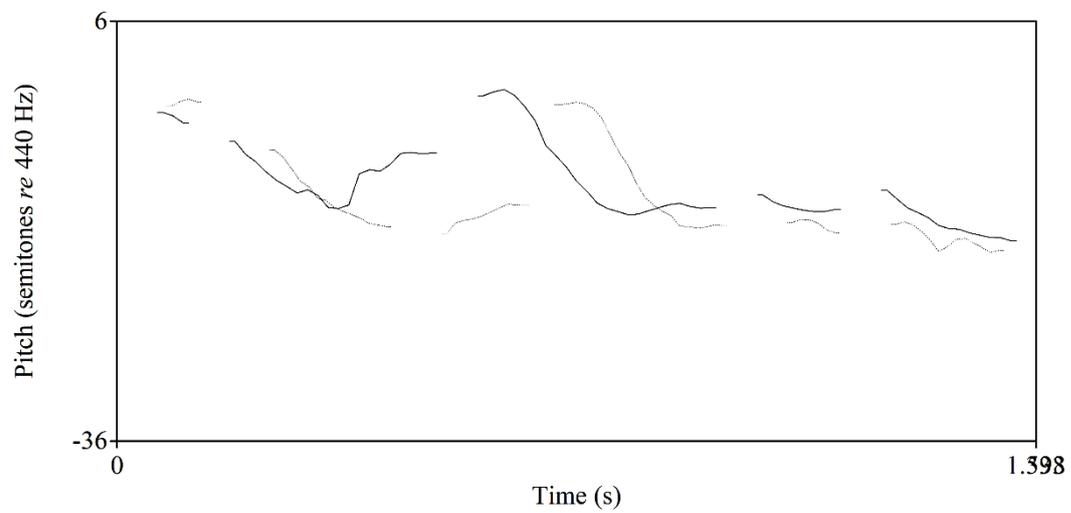
例3 你看的什么？



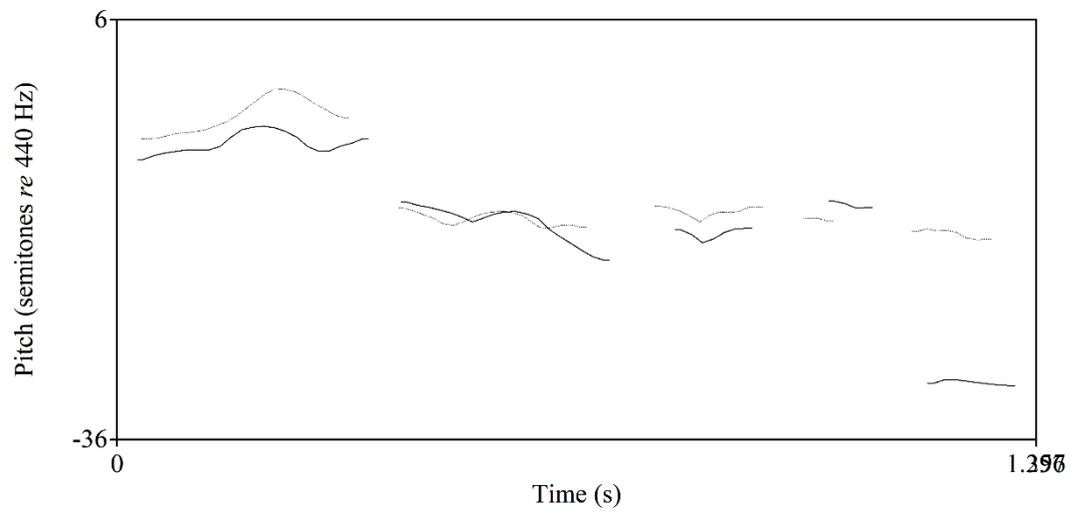
例4 这儿哪有卖红裙子?



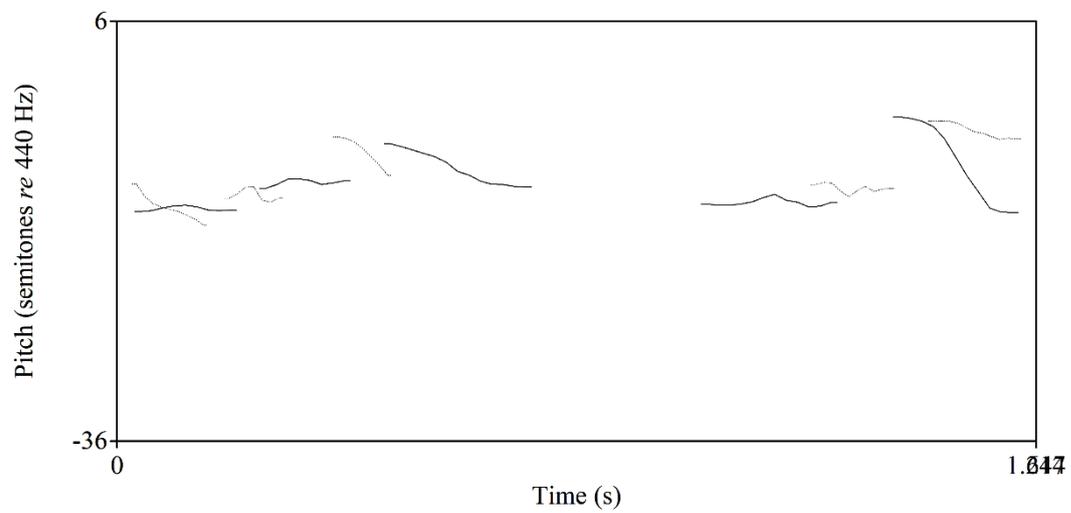
例5 他怎么从后门出去了?



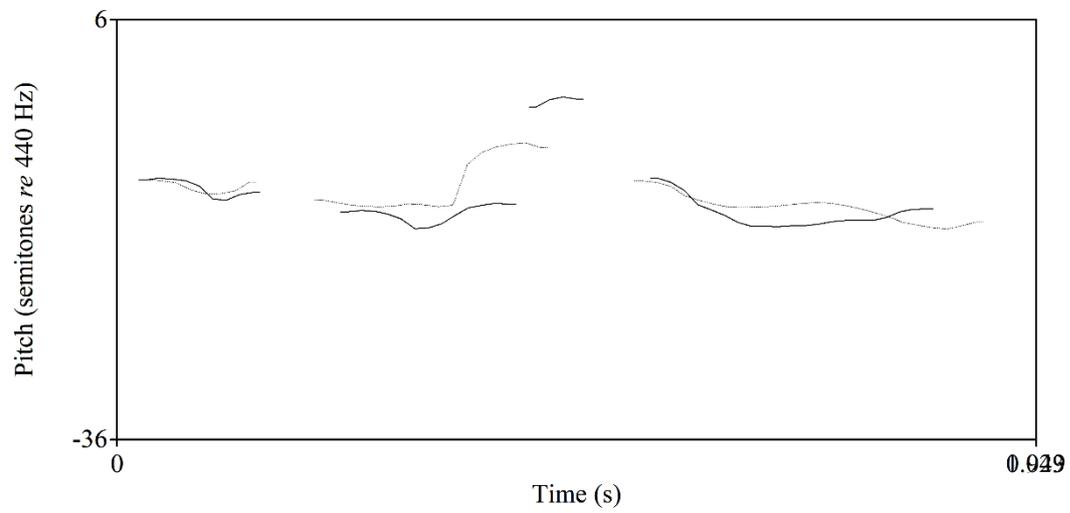
例6 她为什么要杀死他？



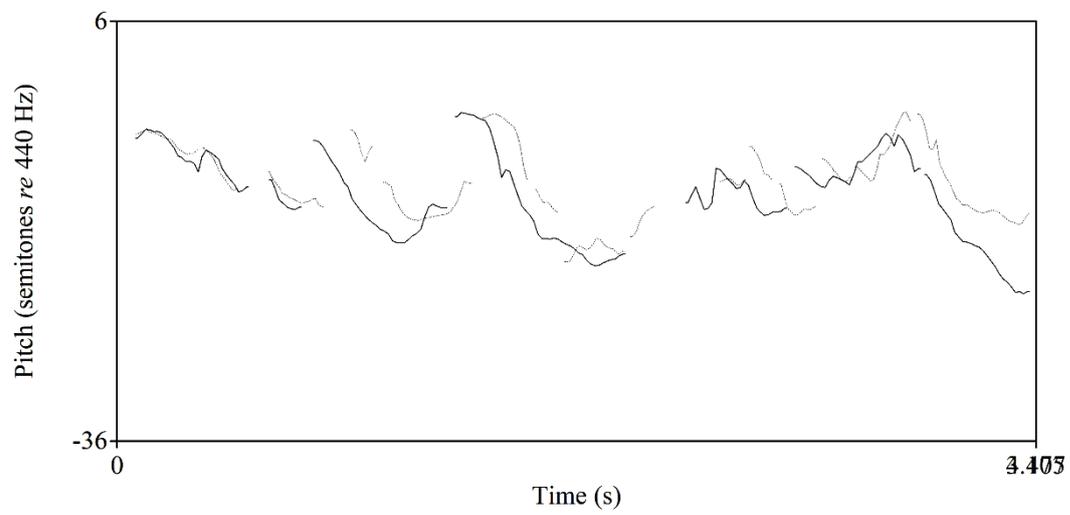
例7 我不去，谁去？



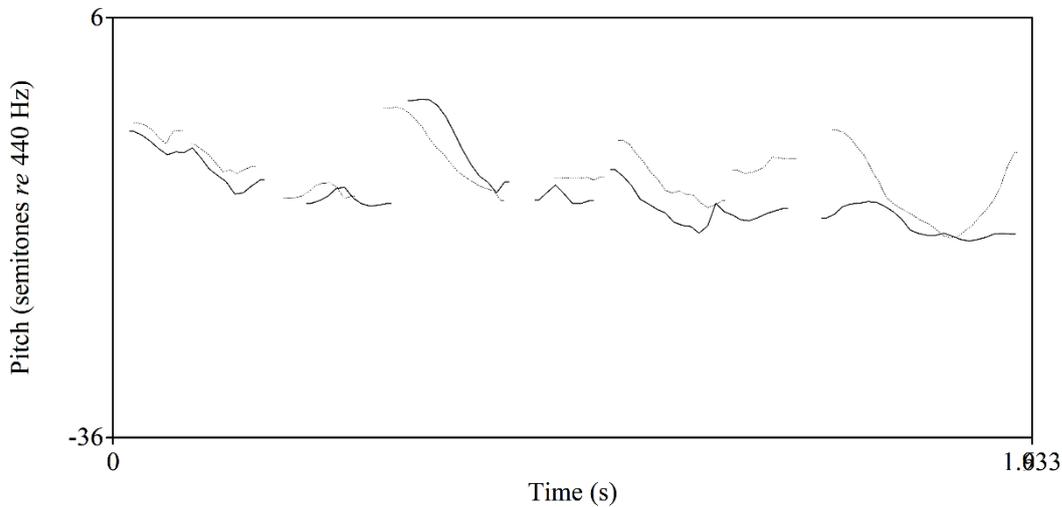
例8 你行不行啊?



例9 他们这次是捡年轻的表扬还是捡技术高的表扬?



例10 这是学校还是你家菜园？



統計的な結果はまだだが、ピッチ曲線の印象からみると、反語文として発話される場合は、ピッチの最高点が疑問文として発話される場合よりも高く、文末のピッチが疑問文よりも低い傾向にある。ピッチの最高点は *wh* 要素や疑問の焦点に当たる語が担うことが多い。なお、反語文と疑問文であまり差が確認できない例もある。例3“你看的什么？”、例5“他怎么从后门出去了？”、例8“你行不行啊？”では、文末のピッチが下がらず、例6“她为什么要杀死他？”では、ピッチの最高点が疑問文と反語文で大差がない。例3の反語解釈は学生がカンニングしているところを捕まえたときの怒りの表現、例5は不思議なことが起こったことへの訝りの表現、例8の疑問解釈は相手が具合悪そうな様子への気遣い、不安を表す場合であり、反語のプロソディ以外に、感情的な要素が強く出ている可能性がある。例6はテレビ番組のゲスト発言であり、反語の用例ととられなかった可能性がある。

以上のデータのうち、他の例については、Zahner et al. (2020)、Lo and Kiss (2020)、曹泰和 (2023) らの *wh* 疑問文の反語的用法におけるプロソディ研究の結果と大方一致している。Zahner et al. (2020) が、22 個の *yes/no* 疑問文と *wh* 疑問文について、反語解釈をもたらす文脈と疑問解釈をもたらす文脈の下で、それぞれ発音されたプロソディを比べ、(i) 反語疑問文は、対応する情報を聞く疑問文よりも、低い基本周波数で発声されている。特に最初の要素と最後の要素は声調のポイントが低くなる。(ただし、第3声には、有意な差は見られない)、(ii) 反語疑問文は、長い継続時間で発声される。その場合、最初の要素がもっとも伸長率が大きい、(iii) 反語疑問文には、声門閉鎖音がより含まれる。特に最後の要素で顕著である、と指摘している。Lo and Kiss (2020) は、Jamieson (2018) の反語文の下位分類を基に、疑問文と反語文のプロソディを比較している。Jamieson (2018) の反語文の下位分類とは、該当する人・ものがないことを表す RQ-文 (Who will help John? = Nobody will help John.)、特定の人・ものが答えであることを表す RQ+文 (Who will help John? = Bill will help John.)

である。8つの wh 疑問文について、疑問解釈、RQ-解釈、RQ+解釈の三つを誘発する文脈を設定し、母語話者の音声进行分析した。結果、i) 反語文の継続時間は疑問文より長いこと、ii) 反語文の文末助詞の継続時間は、疑問文より短いこと、iii) 反語文における wh 要素のピッチは疑問文よりも高いこと、iv) 反語文における文末助詞のピッチは疑問文よりも低いこと、を指摘し、RQ-文の方が RQ+文よりも反語文のプロソディが強く表れていることを明らかにしている。また、曹泰和 (2023) も、反語文の語気は、疑問詞に焦点強勢を置くことで得られると指摘している。

なお、英語の反語文のプロソディについては、Dehé and Braun (2019) がカナダ英語の疑問文と反語文の音声を詳細に比較し、(i) yes/no 疑問文にのみ、疑問文は上昇調、反語文は平板調と違いがあり、wh 疑問文については、どちらも違いがなかったこと、(ii) ピッチ強勢が疑問文と反語文の違いを担っていったこと、(iii) 反語文の方が単語の継続時間が長く、wh 語の発声の質 (voice quality) が柔らかかったことを指摘している。

日本語については、案野 (2019) が次の例を挙げて、上昇調でも下降調でも反語の解釈をできることを指摘している。

92) ドラえもん「いくじのない…。きみはしょっちゅういろんな決心をするけど、いっぺんでもやりとげたことがあるか! [↑] [↓] そんなことでこれからの人生を……。」

のび太「いわれてみればぼくは意志が弱い…。」「強い意志がほしいよォ。」

(藤子・F・不二雄『ドラえもん』) (案野 2019:24)

「今までいろいろな決心をやりとげたことがあるか」と聞き手に問いかけ、ないことを想起させる場合には上昇イントネーション、ないだろうと断定し、きめつけてかかっている場合には下降イントネーションで発話される。下降イントネーションのときは明らかに反語表現であるが、上昇イントネーションの場合は、反語表現とも解釈できる一方で、疑問表現とも解釈できる。

以上のように、反語文のプロソディについては、通言語的に、継続時間が長くなる、疑問詞に強勢が置かれ、それ以外は低いピッチで発話される傾向があるものの、各言語や反語文の種類による違いが多い。

4.2 意味論に与える効果

Kiss and Lo (2021) は、Farkas and Roelofen (2017) の Division of Labor model に基づき、Lo and Kiss (2020) で明らかになった中国語の疑問文、RQ-文、RQ+文の違いを説明している。特に文末のピッチについては、Pierrehumbert and Hirschberg (1990)、Gunlogson (2003)、Gussenhoven (2004) らにより、発話末尾のピッチの上昇は未完結または不確実であることを表し、後続する文脈により解釈されるものであること示唆するが、発話末尾のピッチの下降は完結や確実さを表し、後続する文脈に関わらず、その発話だけで解釈されるものである

ことを示唆すると指摘されている。Farkas and Roelofsen (2017:272) も、文末の音調がもたらす談話効果として、以下のようにまとめている。

93) The contribution of sentence-final tunes to the special discourse effects of utterances

- a. ↑ zero to low credence (ゼロまたは低い信用性)
- b. ↓↑ moderate to high credence (ほどほどから高い信用性)
- c. ↓↓ high credence (高い信用性)

中国語では、Lo and Kiss (2020) で明らかになったように、疑問文が上昇調であるのに対し、反語文、特に RQ+文は下降調であることから、疑問文はゼロまたは低い信用性を持ち、後続文に応じて解釈されるのに対し、RQ+文は高い信用性を持ち、後続文を必要としないと考えられる。これは、それぞれ疑問文の機能と反語文の機能に一致している。RQ-文については、その中間的な位置づけにあり、ほどほどから高い信用性を有していると説明できる。ただし、反語文における否定極性成分の認可や、反語文に対する応答形式の違いなどは、信用性だけでは説明できないという問題点がある。なお、データの対象が wh 疑問文だけであり、例えば英語のように、wh 疑問文では疑問文と反語文の差がみられない言語もある。また、日本語の反語文のプロソディも、下降調であるとする見方が多いものの、案野 (2019) で指摘されているように、上昇調/下降調のどちらも可能であるとする見方もある。このように、Farkas and Roelofsen (2017) の Division of Labor model は、一定の説明を与えるものの、未解決の問題を残している。

本研究では、動的意味論の枠組みで、以下のように否定極性成分の認可や、応答形式の違いについて説明を与えた。

- A) 英語では、反語文の表す陳述命題は前提の一部となり、アクティブな情報状態にない。否定極性成分の認可は前提において行われる。
- B) 中国語では、反語文の表す陳述命題は、書面語では前提の一部となるが、口語では新たに作られた情報状態にあり、否定極性成分の認可は前提においてのみ行われる。
- C) 日本語では、反語文の表す陳述命題は、新たに作られた情報状態にあり、完全否定極性成分の認可は新しい情報状態が作られる前に行われなければならない。したがって、完全否定極性成分は否定語にアクセスできず、認可されない。

さらに、プロソディの果たす役割については、反語のプロソディには他の感情を表すプロソディが重なってくることもあり、注意が必要であることを指摘した。また、日本語の反語文は、新たに情報状態を作ってその断定命題を置くため、他の言語とプロソディの役割が異なってくる。これは、日本語では下降調でも上昇調でも反語を表すことができるという観察に符合すると思われる。

5. まとめ

以上、反語文における否定極性成分の認可状況と反語文への応答形式のあり方から、動的意思論に基づく反語文の意味論を提案し、反語文のプロソディの特徴について述べた。本研究の特色としては、wh 疑問文以外の疑問文についても、反語解釈の場合と疑問解釈の場合の違いを見ていくこと、File Change Semantics に基づく動的意思論で反語文における否定極性成分の認可や、反語文に対する応答の違いを説明したことが挙げられる。プロソディの役割は、まだ推測の域を出ていないものの、マクロ文脈への操作方法を示唆する働きであると思われる。

6. 参考文献

- 案野香子 (2019) 『現代日本語の反語表現についての研究』大阪公立大学：博士論文。
- Biezma, M. and K. Rawlins (2017) “Rhetorical questions: Severing questioning from asking,” *SALT* 27:302-322.
- Caponigro, I. and J. Sprouse (2007) “Rhetorical questions as questions,” *Proceedings of Sinn und Bedeutung* 11:121-133.
- Dehé, N. and B. Braun (2019) “The prosody of rhetorical questions in English,” *English Language and Linguistics* 24.4:607-635.
- Farkas, D. F. and F. Roelofsen (2017) “Division of labor in the interpretation of declaratives and interrogatives,” *Journal of Semantics* 34:237–289.
- 冯江鸿 (2004) *A Pragmatic Study of Chinese Rhetorical Questions*. 上海:上海财经大学出版社。
- Groenendijk, J. and M. Stokhof (1984) *Studies on the Semantics of Questions and the Pragmatics of Answers*. Ph.D dissertation, University of Amsterdam.
- Gunlogson, C. (2003). *True to Form: Rising and Falling Declaratives as Questions in English*. NY: Routledge.
- Gussenhoven, C. (2004). *The Phonology of Tone and Intonation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hamblin, C. L. (1973). “Questions in Montague English,” *Foundations of Language* 10:41–53.
- Han, Chung-hye (2002) “Interpreting interrogatives as rhetorical questions,” *Lingua* 112: 201-229.
- Heim, I. 1983 “On the projection problem for presuppositions,” in Portner, P. and B. H. Partee (eds.) *2002 Formal Semantics — the essential readings*:249-260. Oxford: Blackwell Publishers.
- Isaacs, J. and K. Rawlins 2008. “Conditional Questions”. *Journal of Semantics* 25: 269-319.
- Jamieson, E. A. (2018). *Questions, biases, and ‘negation’: Evidence from Scots varieties*. Ph.D. thesis, University of Edinburgh.
- Kadmon, N. (2001) *Formal Pragmatics*. Massachusetts: Blackwell Publishers.

- Kaufmann, S. 2000 “Dynamic Context Management”. In Faller et al. (eds.) *Formalizing the Dynamics of Information*. CSLI Publications, California. 171-188.
- Kiss, A. and Roger Y.-H. Lo (2021) “Rhetorical wh-questions differing in inquisitiveness: Support from Mandarin prosody,” In P. G. Grosz, L. Marti, H. Pearson, Y. Sudo and S. Zobel (eds.) *Proceedings of Sinn and Bedeutung* 25, pp. 480-496.
- Lewis, D. (1973) *Counterfactuals*. Harvard University Press.
- Lo, Roger Y.-H. and Kiss, A. (2020) “Durational and pitch marking of rhetorical wh-questions in Mandarin,” paper presented at 10th International Conference on Speech Prosody, Tokyo, Japan
- Pierrehumbert, J. and J. Hirschberg (1990) “The meaning of intonational contours in discourse,” in P. R. Cohen, J. Morgan, and M. E. Pollack (Eds.), *Intentions in Communication* :271–312. Cambridge, MA: MIT Press.
- Roberts, C. (1989) “Modal subordination and pronominal anaphora in discourse,” *Linguistics and Philosophy* 12: 683-721.
- Sadock, J. M., "Queclaratives," in Papers from the Seventh Regional Meeting, April 16-18, 1971, Chicago Linguistics Society, 1971. 223-232.
- 曹泰和 (2023) 『現代中国語の反語文・疑問文に関する研究』第八章。東京：白帝社。
- Stalnaker, R. (1978). “Assertion,” *Syntax and Semantics* 9:315–332.
- Wu, Xiangyan and Lei Wang (2018) “A Review of Negative Polarity Item Studies,” *Advances in Social Science, Education and Humanities Research* 284:63-65.
- Xue, Bo and Haihua Pan (2023) “Negative polarity items in Chinese,” *Linguistics* 22:1-42.
- 于天昱 (2018) 《话语分析视角下的现代汉语反问句研究》北京：知识产权出版社。
- Zahner, Xu, Chen, Dehé and Braun (2020) “The prosodic marking of rhetorical questions in Standard Chinese,” Proceedings of the 10th International Conference on Speech Prosody, Tokyo.
- Zwarts, F. (1996) “Three types of polarity items,” in Hamm, F. and E. Hinrichs (eds.), *Plural quantification*:177-238. Dordrecht: Kluwer.

COCA (Corpus of Contemporary American English): <https://www.english-corpora.org/coca/>

CCL (北京大学中国语言学研究センター语料库) : http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/